日刊水産経済新聞
2016（平成28）年3月14日（月曜日）

気仙沼の魚を学校給食に普及させる会

マグロ漁業、知ってるかい？

東京・目黒で食育授業

「気仙沼の魚を学校給食に普及させる会」（会長・臼井壮太朗臼福本店社長）は9日、東京の目黒区立駒場小学校で小学4年生58人を対象に、食育授業を行った。遠洋マグロはえ縄漁船の田名網路晴漁労長が仕事に対する思いなどを伝え、東京の子供たちに気仙沼の水産業を発信した。

気仙沼市と目黒区は友好都市で、有名な「目黒のさんま祭り」では気仙沼の新鮮なサンマが提供されている。その縁もあり、気仙沼の水産業について伝えようと、今回の授業が実現した。

臼井会長は気仙沼が日本有数のマグロ船の基地であるとし、日本の遠洋マグロはえ縄船が厳格な資源管理を行っていることなどを熱く伝えた。

続いて、気仙沼市唐桑町鮪立生まれで、22年にわたりマグロ船に乗船している田名網漁労長が操業の様子や、漁師という職業の尊さを語った。荒波の中をマグロ船が操業する映像を見たり、航海期間が11か月と長いことを知った生徒たちは驚きの声を上げていた。

漁労長による講話のあとは、タブレット端末を教科書代わりに、三陸に好漁場ができる理由や、気仙沼の漁業を学習。「気仙沼は漁業への思いが強い町」とアピールした。

また、11日の給食では、臼福本店の昭福丸がインド洋で漁獲したメカジキを活用した「メカジキメンチコロッケ」が提供され、気仙沼の魚を味わった。

なお、タブレット端末の授業で使用したコンテンツはWEB（http://kesennumanosakana.jp）でも公開されている。

マグロ漁業について説明する臼井会長㊨と田名網漁労長㊧